

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	つ・な・ぐ 安曇野に伝わる物語を親から子へ“つないでいく”、世代を「つなぐ」
事業主体 (連絡先)	安曇野市 教育部生涯学習課社会教育担当 電話 0263-71-2466 古畑
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,177,500円 (うち支援金: 878,000円)

事業内容

子どもたちが過去から伝わる地域の伝説に触れ、昔の人々の生活や考えに思いを巡らし、郷土を愛する心を育てるため、伝説を継承していくことを目的とし事業を行った。

- 1 図書「つなぐ-安曇野の伝説-」の制作
郡誌等から10話を選考して小学生向きに執筆。方言の会話文を取り入れるなど親しみを持てる図書となるよう工夫した
- 2 出前授業“つたえる”の実施
市内の読み聞かせ活動団体による授業
- 3 安曇野検定【ジュニアの部】の実施
検定受験を希望する市内の小学4・5年生10クラスに図書を配付。授業や家庭学習で学んだ後、図書の内容から出題する検定を実施した



【読み聞かせ出前授業“つたえる”】

【目標・ねらい】

- ① 子どもたちに地域の伝説を知ってもらう
- ② 図書を配付した児童から、低学年や家族へ伝説をつないでいく
- ③ 多様な世代が伝説継承に関わる

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 図書配付後に実施した安曇野検定【ジュニアの部】では図書の内容から出題。配付から検定まで2週間ほどであったが、6割正答者が69%、合格基準となる7割正答者は49%となり、短期間でも伝説の内容が理解されていることを示した。また出前授業実施クラスの6割正答率は75%と高い割合であった。
- ② 読み聞かせの出前授業(5年生)では、自分たちが読み聞かせをする際の手段、方法について講師から話があり、次年度の校内なかよし学級での取り組みで効果が期待できる。
- ③ 読み聞かせ出前授業は市内で活動しているサークルに講師を依頼。児童に年齢が近い大学生も加わり授業を行った。児童に配付した図書により、家庭で親世代や祖父母世代にも読んでもらうことができ、そこからの波及も期待できる。

※自己評価【B】

【理由】

本年度内に見られる効果としては限られているが、児童の反応や市民からの問い合わせなど、今後に期待が持てる一定の効果は得られたと考える。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

小中学校、図書館、公民館長等の教育関係者へ配付した図書を活用し、あらゆる世代に伝説に触れてもらうことで、地域に目を向け、また昔の人々の生活や考えにも関心を持てるようにしたい。このために、小中学校では郷土学習等での資料としての活用を、また公共図書館でも企画展示等で取り上げてもらうよう働きかけていくとともに、郷土の伝説や地域独特の文化・民俗を生涯学習のきっかけにする人が増えるよう機会をつくっていききたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある